

# さくらと学ぼう全経簿記1級（工業）

合格への戦略（改訂5版 2014年度対策）  
～日商2級への理解も深まります～



試験時間 会計 9:00～10:30 工業 10:40～12:10

|     |     | 配点  | 最低目標 |                   |
|-----|-----|-----|------|-------------------|
| 第1問 | 15分 | 16点 | 12点  | カード学習でひたすら覚える     |
| 第2問 | 15分 | 24点 | 20点  | パターン化できる。うまくいけば満点 |
| 第3問 | 15分 | 16点 | 16点  | 下記の重点予想は完璧に！      |
| 第4問 | 45分 | 44点 | 30点  | 手順確率で70%は固い       |

## 第2問対策

仕訳はパターン化できます。

工場の中にあるものは、最終的には製品という資産なる事を考えると理解しやすい。

資産は増えたら借方、減ったら貸方です

### <例題>

1.工程別総合原価計算において、第一工程で工程完了品 1,500 個（単価 362 円）の製造が完了し、第2工程に引き渡した。

2.組別総合原価計算において、組間接費 1,280,000 円をA組に 55%、B組に 45%の割合で配賦した。

### 第3問対策（確実に16点取りに行きましょう。とれます）

<161回>製造間接費の配賦（問題の要点は下にまとめています）

製造間接費（電気代・消耗品・家賃等の集合）を製品に配分する基準をどうするか？  
（日商では、ほとんど直接作業時間が配賦基準ですが・・・）

☆その製品の価格の大半が人件費による場合（イカ焼き）直接作業時間で按分する



☆その製品の価格の大半が材料費による場合（ダイヤモンド等）材料費で按分する



☆その製品の価格は、とにかく直接費の合計による場合（例が思いつきません）  
直接費の合計で按分する

（問題）製造間接費の配賦方法を①直接労務費法と②直接費法によった場合、各方法の製造間接費配賦率、製造指図書#20の製造間接費配賦額および製造原価を求めなさい

1. 予算資料（年間予算額）  
製造間接費 16,500,000 直接材料費 12,000,000 直接労務費 15,000,000  
直接経費 3,000,000 年間の直接作業時間 20,000 時間

2. 当月の製造指図書#20に関する資料  
直接材料費 265,000 直接経費 35,000 直接作業時間 240 時間

3. 直接工の予定賃率 750 円

この問題は「イカ焼き」パターンのおうですね。

阪神百貨店の地下売り場の家賃（高そうです）やイカ焼き自動精製コンベア（勝手に名づけました）のリース料金を、お兄ちゃん達が作業している時間で配分する訳ですね。

でも、イカ焼きは本来、総合原価計算（普通バージョンとデラバンで組別総合原価計算？）なので例としてはおかしいですが、がまんして下さい。

家賃とコンベアのリース料：16,500,000 円、イカ焼きの材料費：12,000,000 円  
お兄ちゃん達の人件費：15,000,000 円、イカ焼きの特許料：3,000,000 円

お兄ちゃん達の人件費に対して1.1倍（110%）の間接費がかかっていると考えればいいですね。これが直接労務費法

でも、今月から社長が「直接原価全部との比率で計算しなさい！！」との事  
この場合は、30,000,000の55%で製造間接費を配分する必要がありますね。

後はこの配賦率に基づいて、製造指図書#20の原価計算をすれば良いですね。

| 配賦方法   | 配賦率  | 製造指図書#20 |         |
|--------|------|----------|---------|
|        |      | 製造間接費配賦額 | 製造原価    |
| 直接労務費法 | 110% | 198,000  | 678,000 |
| 直接費法   | 55%  | 264,000  | 744,000 |

<160回>パーシャルプラン勘定記入

問題の要旨：仕掛品製造間接費の勘定記入を行いなさい。但し、仕掛品勘定の借方に実際発生額を記帳する方式（パーシャルプラン）による。

1.2. 製品1個あたりの間接費の原価標準は下記の通りである

3. 当月の実際直接作業時間は1,770時間である

4. 当月の実際発生額

①消耗品：月初22,800 当月仕入286,900 月末27,400

②間接工賃金：前月末払120,100 当月支払729,600 当月未払113,000

③電力量：当月支払額216,000 当月測定額202,400 ④その他669,000

5. 生産データは下記の通りである

①原価標準カードの作成→②生産データの整理→③実際原価との比較→④差異分析  
 全経1級の第3問では①～③で回答書けます

|                     |                   |       |
|---------------------|-------------------|-------|
| <b>原価標準（原単価カード）</b> | 材料費 *****         | ***** |
|                     | 労務費 *****         | ***** |
|                     | 間接費 @1,060×0.4時間= | 424円  |
|                     | 合計                | ***** |

生産データ（間接費分のみ記入 ∴換算量で記入）

| 生産データ      |                                     |
|------------|-------------------------------------|
| 投入 4,350個分 | 完成品 4,000個<br>月末仕掛品 350個分 (700×0.5) |

完成品の金額＝原価カードの単価（424）×完成品数量（4,000）＝1,696,000  
 月末仕掛品の金額＝原価カードの単価（424）×完成品換算量（350）＝148,400

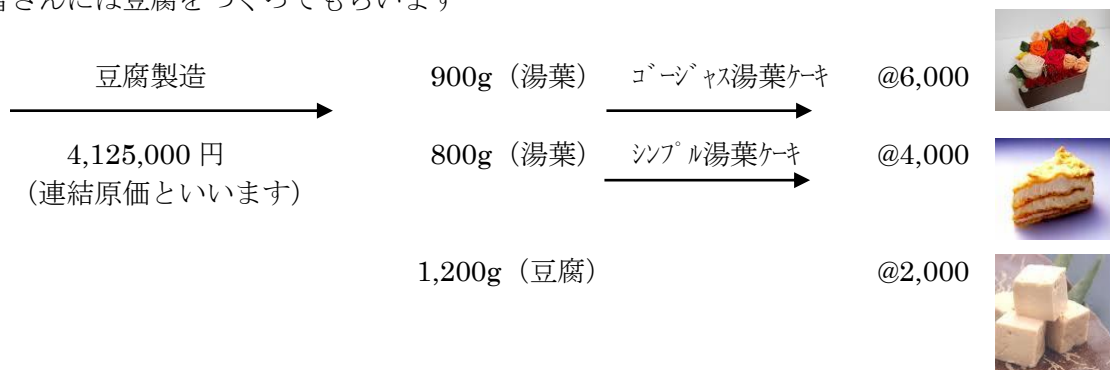
パーシャルプランなので、借方は実際額で記入して下さい

消耗品（間接材料）＝月初＋当月購入－月末  
 賃金＝当月支給＋当月未払－前月末払（当月＋当月－前月 と覚えよう）  
 電力量は測定経費なので、当月測定額を使って下さい  
 差異は逆算で簡単に書けます

| 仕掛品  |   |
|--|---|
| 工場消耗品 282,300<br>賃金給料 722,500<br>電力量 202,400<br>諸口 669,000 | 製品 1,696,000<br>差異 31,800<br>次月繰越 148,400 |
| 合計 1,876,200   | 1,876,200                                 |

<162回>連産品（解答用紙のイメージはP7を参考にしてください）

皆さんには豆腐をつくってもらいます



連産品の定義：豆腐と湯葉のように同じ材料を使い、同じ作業から必然的にできる種類の違う製品の事を連産品といいます。

本来ケーキ作るには個別の加工費がかかりますが、全経1級では気にしなくてもOKです  
こんなイメージで考えてください

ではシンプル湯葉ケーキの単価@4,000円はどうして計算するのか？

等価係数×生産量＝積数 から等価係数を算出する

$$\text{製品Cならば 等価係数} \times 1,200 = 1,200 \quad \therefore \text{等価係数} = 1$$

等価係数が算出できたら、その比率から正常市価を算出する

$$\text{製品C} : \text{製品A} = 1 : 3$$

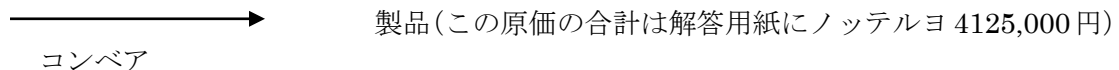
製品Cの係数が1で市価が2,000円 ならば係数2のBの市価は？

後は、積数によって4,125,000円の原価（連結原価といいます）を配分します

仕掛品勘定の作成は勘定連絡図からイメージして下さい

コンベア（仕掛品）から製品として完成した金額は、いくら？

豆腐とゴージャスとシンプルの原価の合計ですよね。



<154 回類題> 直接原価計算

1. 次の資料により直接原価計算（直接費＝変動費のみで製造原価を計算する方法）方式によるP/Lを作成しなさい。

イカ焼きお土産セット

売価@1,600円

|             |          |   |      |
|-------------|----------|---|------|
| 変動費（小麦粉・イカ） | 540,000円 | } | 製造原価 |
| 変動加工費（電気代等） | 738,000円 |   |      |
| 固定加工費（リース料） | 414,000円 |   |      |



|                            |          |   |       |
|----------------------------|----------|---|-------|
| 営業マンの歩合給(変動費) 1個売るごとに@154円 |          | } | 販売管理費 |
| 一般管理費（事務所家賃）               | 204,000円 |   |       |
| 固定販売費（営業マン固定給）             | 126,000円 |   |       |

今月は1,800個生産（月初月末の仕掛品・月初の製品在庫なし）して、1,500個販売

2. 向いに「ちよぼ焼」の店ができたため、来月は1,400個の販売に減少しそうである。現在の営業利益を確保するには、固定費総額をいくらしなければならぬか？ 営業マンの給料を下げるとか？リース会社に交渉するとか？悩みます。



たこ焼きとお好み焼きを足して2で割った感じ  
ポンズ味がウマイです

|     |        |   |   |
|-----|--------|---|---|
| I   | 売上高    | ( | ) |
| II  | 変動売上原価 | ( | ) |
|     | 製造マージン | ( | ) |
| III | 変動販売費  | ( | ) |
|     | 限界利益   | ( | ) |
| IV  | 固定費    | ( | ) |
|     | 営業利益   | ( | ) |

現在の営業利益を確保する為の固定費総額 ( )

<回答>

|     |        |   |                    |
|-----|--------|---|--------------------|
| I   | 売上高    | ( | 2,400,000)         |
| II  | 変動売上原価 | ( | <u>1,065,000</u> ) |
|     | 製造マージン | ( | 1,335,000)         |
| III | 変動販売費  | ( | <u>231,000</u> )   |
|     | 限界利益   | ( | 1,104,000)         |
| IV  | 固定費    | ( | <u>744,000</u> )   |
|     | 営業利益   | ( | 360,000)           |

現在の営業利益を確保する為の固定費総額 ( 670,400 )

売上高が変化する→変動費も変化する→限界(貢献)利益がわかる→固定費引くと営業利益

太字が各 4 点

<応用問題>

<損益分岐点を求めなさい(円未満切捨)>

<損益分岐点比率を求めなさい(小数点第 2 位を四捨五入)>

<安全余裕率を求めなさい(小数点第 2 位を四捨五入)>

<直接原価計算の営業利益を利用して全部原価計算の営業利益を計算しなさい  
全直末首、加減して(うわさの全直末首です)>

上記回答

損益分岐点=1,617,391、損益分岐点比率=67.4%、安全余裕率=32.6%

全部原価計算の営業利益=

直接原価計算の営業利益  
+ 月末棚卸資産に含まれる固定製造間接費  
- 月初棚卸資産に含まれる固定製造間接費

| 製品                   |             |
|----------------------|-------------|
| 固定製造間接費<br>414,000 円 | 販売数 1,500 個 |
|                      | 在庫数 300 個   |

月末棚卸資産に含まれる固定製造間接=414,000×300÷1,800=69,000

∴ 全部原価計算の営業利益=360,000+69,000=429,000 円

原価計算表

| 品名 | 正常市価   | 等価係数 | 生産量   | 積数    | 按分現価 | 単位原価 |
|----|--------|------|-------|-------|------|------|
| A  | @6,000 |      | 900   | 2,700 |      |      |
| B  |        | 2    | 800   |       |      |      |
| C  | @2,000 |      | 1,200 | 1,200 |      |      |

4,125,000

仕掛品

|      |           |      |
|------|-----------|------|
| 前月繰越 | 330,000   | 諸口   |
| 諸口   | 4,191,000 | 次月繰越 |